

岡山とお寺（上氏家町）

豊地区の中心より南の方に、豊のシンボル岡山があります。

岡山の歴史は古く、大昔から人が住み、山は古墳群になっています。岡山を中心として、山の表、岡出、山西、中岡、東岡、西岡、南岡、北野岡、将軍岡などの字名が今でも残っています。

岡山の北の方には、西岡谷と言う所があり、そこには真言宗の西福寺がありました。開祖顕道上人が、嘉歴二年（一三二七年）に創立しましたが、慶安三年（一六五〇年）に浄土真宗本願寺派に改宗して現在は下氏家にあります。

また、岡山の東のふもとは、真光寺がありました。昔は天台宗で真入院とあって、今の新右門屋敷跡にありましたが、天正時代（一五七三年～一五九一年）に織田信長によってお寺が壊され

て住職（お坊さん）は上氏家村に隠居しました。その折、中村奥左エ門の先祖の方が浄土真宗本願寺に帰依（仏を信仰すること）し、寺則（寺のきまり）を改めて、寺の名前も熱田山真光寺にしました。

今の伊右エ門屋敷はその跡で、伊右エ門さんはその後、寺の姓を名乗り、熱田伊右エ門になったと聞いています。

明治五年、現在地に真光寺は再建されました。

